

原発事故 避難した友との別れ

無職

(福島県 80)

原発事故で神奈川に避難した友に電話をかけた。だがつながらない。いつもは着信履歴を見て折り返してくれたが、それもなかった。

あちこち住まいを変えて、行き着いた所が神奈川だった。93歳の彼女はアパートで一人暮らし。以前、アパートを訪ねたときには、元気でお茶を出してくれた。ともに暮らししていた浪江町のことや懐かしい話で盛り上がった。

人づてに彼女の消息を聞いた時には、言葉がでなかった。彼女は避難してから一度も浪江町の自宅に帰ら

なかったという。

その後、私は浪江町に行った。草が生い茂った中に、風化した彼女の家がポツンと残っていた。いいようのない寂しさだった。

お墓は町内のお寺にあった。新しい白木に墨で書かれた彼女の名前を見つけた。もともと、おしゃべりしたかったのに。ささやかな願いはかなわなかった。

私の寝室には、彼女からもらった犬の壁飾りがある。一針一針縫い込んだ品。大事にします。ありがとうございます。またお墓に会いに行きますね。今は、とても寂しい。

たくさんの時が流れた。